

緑の党 会員発プロジェクト

オルタナミーティング VOL.1  
～ 3.11から3年 東北を忘れない!～



2014年3月16日 阿佐ヶ谷ロフトA

AMプロジェクト(大場 亮)

社会をかき混ぜて人々の注意を喚起し、時の主流とは相反する新しい音楽への興味を促すのさ。  
それは社会全体にとって意味深いことだよ。  
“時の主流”の人たちにとっては良いニュースとは言えないけど。  
問題は、この“オルタナティブ”という言葉が特定の音楽ジャンルを示す言葉になってしまったことだ。  
領域を狭めてしまったんだ。  
突如凄い焦点が定められて、ラジオ局のフォーマットになってしまったのさ。  
それは全くオルタナティブの本来の意図に反していただろ？  
そもそも開放するためのものだったのに、逆に閉ざされたものになってしまったわけだから。  
そういう状況が定着しつつあったときに僕らがデビューした。  
だから、僕らは自分たちをオルタナティブとして捉えたことは無い。  
“(特定の音楽ジャンルを示す)オルタナティブ”へのオルタナティブだと思っていたからね。

**Garbage / デューク・エリクソン**

今回のイベント企画を思い立ったのは昨年11月頃でした。動機のひとつは3.11にあたり、何かアクションを起こせないかと思ったことです。私は3.11以降立ち上がった「東北ライブハウス大作戦」(宮古・大船渡・石巻にライブハウスを設立するプロジェクト)を応援しています。2012年冬にこの3か所を訪れ、被害の甚大さに大きなショックを受けました。今回出演していただいた2組は、3.11以降、音楽を通じた被災地支援に取り組んでおり、人選に迷いはありませんでした。彼らの地道な活動は、多くの被災地の方々に勇気付けています。初共演であった今回のライブは見事なマッチングで、改めて音楽の持つ発信力を印象付けてくれました。動機のひとつは、グリーンズ発のカルチャーを「発信」したいと考えたことです。三宅洋平の「選挙フェス」で感じたことですが、どうも若者の多くは、政治そのものや政治に関わるのが「ダサイ」ことだと感じている節がありますよね。「選挙フェス」は見事にそれを払しょくしてくれました。最終日の憲法9条を読み上げるシーンは「カッコいい」の一言です。政治と文化の関係性は永遠のテーマかもしれませんが、少なくとも両者は上下関係にあってはならず、私たちは新しい社会を目指す中で「緑のカルチャーシーン」を創造してゆきたいものです。私たちにはまだまだ「発信」が足りません。今回のテーマである「もうひとつの出会い」を求め、次回以降の企画を進めているところです。肝心のイベントリポートは、会員の長谷川平和さんが秀逸なりポートを寄せていただいておりますので、以下にゆずることとします。

長谷川平和さんのリポートより

音楽にジャンルは数多くあるけれど、『オルタナティブ・ミュージック』というジャンルにふれることができたのは今回が初めてだった。その名もズバリ「オルタナミーティング vol.1 ~もう一つの出会い」で、阿佐ヶ谷のロフトも初めての僕にとっては、まさに「もう一つの出会い」でした。出演したのはリクルマイと桃梨という、どちらも男女ペアのミュージシャンで、災害の風化が心配される中、地道に被災地での活動を続け、メッセージを発信し続けるアーティストだ。緑の党会員発イベント第一弾でもあるその夜の阿佐ヶ谷ロフトのライブは、まさに「オルタナティブな雰囲気」でした。僕にとって抑圧する体制や権力に対抗する音楽といえばロックだったが、レゲエの世界では「バビロンシステム」と呼ばれる。僕はリクルマイの音楽を知っていたわけではないのだが、マイさんの音楽には、震災と現在の権力機構に対する憤りがあり、彼らの発信するメッセージがダイレクトに心に響いてきた。もうロックを聞かなくなってから久しいが、音楽のもつメッセージの多様性に改めて感動した。桃梨も、震災以降毎月被災地を訪問しながら演奏活動をし、新品のTシャツを届ける活動もしているそうだ。報道もされず、支援も十分に行き届いていない避難所は数多い。桃梨はそんな避難所にもかけつけて音楽をプレゼントしているというが、実際に継続させるには並々ならぬ努力が必要だ。ライブでは、JIGENのテナーベースが最高だった。ベースとボーカルのコンビは初めて見たのだが、昔バンドに憧れた時代、よく聞いたピンピン響く「ベースの格好良さ」を思う存分楽しめた。今回のライブの極めつけはリクルマイと桃梨のスペシャルセッションだ。エッジの効いた二人の女性ボーカルと、彼女たちをあたたく支える雰囲気のギターとベースの男性パートナー。雰囲気も何となく似ているのだが、これまで不思議と共演することがなかった2組のアーティスト。お互いのもつ音楽性の相性がとても良く、僕のようにどちらのアーティストも知らなかった者にとっても「夢の共演」であり、被災地をめぐる活動には様々ある中で、「東北を忘れない」を合言葉に心が一つになれることへの示してくれたライブだった。

イベント名 : オルタナミーティング Vol.1

出演 : Likkle Mai & The K 桃梨(上村美保子・JIGEN)

日程 : 2014年3月16日(日)

開場 : 18:30 開演 : 19:30

会場 : 阿佐ヶ谷ロフトA

チケット : 前売 @3000 当日 @3300

進行 : 1部 Likkle Mai & The K ステージ  
トーク&プレゼントコーナー  
2部 桃梨 ステージ

告知 : フライヤー (2000枚/ライブハウス・3.9集会他)  
取材記事(赤旗日曜版12/29・2/6)  
ロフトグループ月刊誌「ROOFTOP」  
Facebook(イベントオフィシャル・出演者・緑)  
緑会員ML その他

主催 : AMプロジェクト/企画・制作 大場 亮 撮影 佐藤 秀明・佐藤 真

協力 : ロフトプロジェクト/阿佐ヶ谷ロフトA



告知実績



フライヤー (B5 2000枚)



ロフトグループ月刊誌 55,000部



赤旗日曜版 桃梨 100万部 20131222



赤旗日曜版 リクルマイ 100万部 2014209

- Likkle Mai オフィシャルサイト
- 桃梨オフィシャルサイト
- ロフトグループオフィシャルサイト
- オルタナミーティング Facebook
- 緑の党 Facebook
- 緑の党 メーリングリスト

## 出演者プロフィール&3.11にあたってのメッセージ

### 桃梨 (モモナシ)

岐阜出身の上村美保子(カミムラ ミホコ/うた)と、岩手出身の JIGEN (ジゲン/テナーベース)による音楽ユニット。1998年から演奏活動を開始し、2005年1月に世界的アコーディオニストcoba のプロデュースで1st.アルバムをリリース。歌とテナーベースでの演奏形態を基本とし、全国各地で積極的に演奏活動をする他、海外でも公演。

東日本大震災の二ヶ月後、2011年5月より、それまでの活動に加えて、毎月被災地を訪問し、仮設住宅の集会所を中心に演奏を行い、更に「被災地に新品Tシャツを届けようプロジェクト」を立ち上げ、演奏と共に新品Tシャツを届ける活動を開始。2012年8月、四年振り4枚目のアルバム「両手に願いを」を発表。2013年7月からは結成15周年ツアーを開始。10月には、被災地での無料演奏会が100回目となり、お届けのTシャツも6300枚を超える。

桃梨オフィシャル・ウェブサイト <http://www.momonashi.com/>

### 桃梨(モモナシ) 上村美保子・JIGENさんからのメッセージ

あの日から三年が経ちますが、「3.11を忘れない」「震災を風化させない」と言うには、あまりにも進まない東北の現状。原発事故も津波被害からの復興も、まだまだ現在進行形で解決していないので、被災地に伺い東京に戻る度に、現地との大きなギャップに、胸を痛め続けています。何はなくとも注目し続けていくこと、そして一日も早い復興を願いながら、音楽を通して沢山の皆様と繋がっていかれたらと思います。よろしくお祈りします

### LIKKLE MAI & THE K (リクルマイ&ザ ケイ)

DUBバンドDRY & HEAVYの元・女性ヴォーカル。05年更なる飛躍を求めソロとして始動。06年『ROOTS CANDY』、07年『M W』、09年『mairation(マイレーション)』をリリース。レゲエ界のベテラン奏者で構成されるLikkle Mai Bandと、ギタリストThe KとのユニットLikkle Mai & The Kでの活躍は国内外に及ぶ。

脱原発デモを通して出会ったジントラムータとのコラボ作『平和に生きる権利』を2012年12月リリースし話題に。

「希望郷いわて文化大使」として故郷・岩手県のPRにも努める。

Likkle Maiオフィシャル・ウェブサイト <http://likklemai.com/>

### リクルマイさんからのメッセージ

東日本大震災から早3年。いち早く日常を取り戻した私たちは、私たち自身が帰宅難民となりコンビニやスーパーに長蛇の列を作ったことを忘れかけている。一方の被災地はどうだろうか。毎日毎日大量のニュースがアップされる中、被災地の声は埋れてしまっているのではないだろうか。無意識のうちに聞き取るべき声を聞き逃していないだろうか。3/16阿佐ヶ谷ロフトでの記念すべき第一回”オルタナミーティング”の場ではライブでトークで震災のことや被災地のことを思い切り表現してみたい。対バンは敬愛する桃梨さん。桃梨さんと共に誰もが暖かく元気になるような時間を作りたい。

## 出演者インタビュー 桃梨

被災地にあいのうた 音楽ユニット桃梨 毎月の無料ライブ100回を超える

音楽ユニット「桃梨(ももなし)」は東日本大震災の後、毎月無料で続けてきた被災地での無料ライブが10月に100回を超えました。歌を担当する上村美保子さんとテナーベース担当のJIGEN(ジゲン)さんに思いを聞きました。

桃梨は1998年、ボーカルとテナーベースの2人組で活動開始。2005年に初アルバムを発表し、海外を含め各地で演奏活動を続けてきました。ジゲンさんは震災後の余震が続くなか、なじみの仙台のダイブハウスの店主が「心が折れそうになっている」というのを聞き、「いてもたってもいられなくなりました。」「それまでは無料で演奏したことはなかったけれど、5月21日に仙台の知人の店でライブをしました。被災者やボランティアの人も来てくれて、そのつながりで翌日には、南三陸町の避難所でライブをしました。最初がいい感じで喜んでもらえたから続けられました。上村さんは、「段ボールの仕切りの中にいた人が、音が鳴るとムクリと元気になるのがうれしかった。お年寄りや子どもたちの前で演奏したことがなかったので、普通のライブでは味わえないような反応の早さなども感じました」と言います。被災地ライブは手弁当。月に1度、2人の住む東京から軽自動車に機材を積み被災地へ。2泊3日で避難所をまわります。無料ライブをするようになって2年半。聴衆が4人の日もありました。ジゲンさんは、「初めは被災者の生活のなかにはいっていくことに不安もありました。でも逆に、みなさんが気を遣ってくれました。みなさんよく笑い前向きな反応をしてくれて、気持は立ち上がろうとしているのを感じました」といいます。

明るく前へ

演奏はオリジナル曲が中心です。温かみのある上村さんの歌声と、快適なテンポのジゲンさんのメロディーが、ライブなど初めてという人々に届けられます。「自分たちの音楽は震災後もいい意味で変わっていない。やってきた音楽は、これでよかったと思える」とジゲンさん。昨年夏に発表したアルバム「両手に思いを」の収録作は、ほとんどが震災前に出来ていた曲。それがまるで、被災地に贈るために作られたのかと思えるような、朗らかで励ましに満ちたメッセージソングになっています。

「ここにあいのうた あなたがくれたうた 抱きしめてゆこう」(「恵みのうた」)

「見えないけれどつながっている 離れていても 繋がっている」(「両手に願いを」)

基本的にはポップスですが、民謡の味わいなども織り込んで、ひとつのジャンルに収まらない音楽をつくり上げています。ジゲンさんは、「明るく前を歩いていこうというような音楽が好きだし、自分でも生みだしたい」といいます。100回ライブはほぼ毎回違う場所で実施。「またきてください」という声には、なかなかこたえられません。出前ライブと並行し、「被災地に新品のTシャツを届けようプロジェクト」も実施中。多くの家でしまわれていて、新品なのに着るあてのないTシャツを被災地に届けてきました。その数は現在で6300枚に達しています。2014年は、すべてが新曲のアルバムを発表予定。被災地だけでなく、全国的なツアーにも力を注ぎ、桃梨を知ってもらいたいと意気込んでいます。上村さんはこういいます。「最初は、桃梨？何それ？紅白出たことあるの？という感じだった人がライブに来てみたら、おもしろかったよとなっていました。ライブに来てくれた人たちに、自分は桃梨のライブに行ったことがあるんだよ、と自慢させられるような存在になりたいです」

## 出演者インタビュー リクルマイ

どんだけ私らコケにされたの 原発、格差 痛快に

岩手出身のレゲエ歌手で、県の魅力をアピールする「希望郷いわて文化大使」でもあるリクルマイさんが3月、東日本大震災から3年がたつのを機に東京でライブをおこないます。原発や新自由主義への鋭い批判を込めた曲を手掛ける胸の内を聞きました。

レゲエ音楽のボーカリストとして20年のキャリアをもつリクルマイさん。「リクル」とはカリブ海の島国・ジャマイカの方言でリトル(小さい)の意味です。レゲエはジャマイカで生まれた黒人音楽のジャンルのひとつで、心臓の鼓動に近いゆったりとしたリズムが特徴です。ロック好きだったリクルマイさんは、高校時代にレゲエと出会いました。「学校帰りに毎日のように通っていたレンタル店で、レゲエの神様と呼ばれるボブ・マーリーのCDを借りてきて衝撃を受けました。一音一音が研ぎ澄まされていて、歌詞には弱者を励ますメッセージがある。どうして彼の言葉が遠く離れた私のところに届くのだろうと思いました」高校卒業後、上京して短大に入学。レコード店でアルバイトをして、たくさんの音楽に接しました。「U2などのロックも好きでしたが、レゲエには白人至上主義や大金持ちを批判するメッセージ性と、理屈抜きに踊れる音楽だという二つの大きな魅力があります。私にとってレゲエは解放の音楽です」レゲエのバーやクラブに入り浸り、1995年にバンド「DRY & HEAVY」に加入。2005年に脱退し、ソロ活動を開始。年に100本前後のライブを重ねながら次々とアルバムを発表してきました。

### 東北の怒りの声

「3.11」後は、チャリティーライブのほか、被災地した漁師にサップ船(小型ボート)を贈る「LOVE BOAT基金」などに取り組みました。各地の反原発の集会や官邸前行動に参加しサウンドカーに乗って歌ったりもしています。「宮古市の出身で、ひとりの東北人として怒りの声をあげてきました。私のやりたいレゲエは、音楽の視点からみた歌です。子どもでも分かるように社会問題をかみくだき、風刺と笑いの力も加えられたらいいですね」。作詩作曲も自分でおこないます。12年発表のアルバム「ダブ イズ ユニヴァース」には、心地よいリズムにのせて時代を撃つ言葉を放つ曲も。たとえば、「海山汚され 住処(すみか)奪われ どんだけコケにされたの / この国とこの電力会社に叫んでやりましょ 原発やめろ」(JUST ONE LOVE IS ALL)「ノー モア 戦争 アンド 洗脳 アイ セイ ノー / 真実の扉 開けよう」(I SAY NO)

### 風刺に目覚めた

1年前、音楽仲間から反骨の演歌師・添田唾蝉坊(そえだあぜんぼう1987~1944)の存在を教わりました。唾蝉坊は、権力者・資本家を痛烈に風刺した歌で人気を博した表現者。「ああわからない」などの作品は、現代の音楽家にもカバーされています。「100年前の日本に、こんなおもしろい人がいたのかと驚きました。ボブ・マーリー級の衝撃で、私も風刺に目覚めました。辛らつなことをいいながら、どう笑わせるか。日本語のレゲエをどう咀嚼(そしゃく)していくかを考えています」3月のライブでは秋田音頭のレゲエ版も披露する予定。「最近、民謡とレゲエは似ていると発見したんです。どちらもお祭りごとの性格があるせいか、相性がいい。おもしろい化学反応があります。民謡歌手の方に習っているところですが、ビブラート(声を震わす技法)が難しいですね」昨年、東京福生市に転居。米軍の横田基地なある町です。「毎日、すごい飛行機の騒音です。沖縄の人たちの気持ちを実感しています」



## 出演者・参加者からのメッセージ

オルタナミーティングVol.1たくさんのご来場ありがとうございました！  
お陰様で素晴らしいひとときとなりました。  
桃梨さんとの共演、夢のようでした。  
デュオとしてThe Kも私も彼らからたくさん刺激を受けました。  
再演を心待ちしつつ私たちもさらに腕に磨きをかけたいと！  
そしてイベント主催の大場さんに大感謝を。  
企画、宣伝、司会までご尽力いただきました！  
関わった全ての皆さんに心より感謝です。

リクルマイ

昨夜の阿佐ヶ谷LOFT AでのオルタナミーティングVol.1  
念願の競演&共演、リクルマイ&THE Kさんとの2マン、彼  
女等の素敵な音世界、沢山のお集まりの皆さんの熱気に  
包まれ、モモナシも高らかに演奏させていただきました  
\*¥(∩∩)\*

この場を企画して下さった大場さん、マイちゃん、Kさん、  
お集まりの皆さん、本当にありがとうございました！！  
この3年で出来るようになったこと。。

仮設住宅での訪問演奏のパフォーマンスの中、少し足が  
高く上がるとお母さん達の歓声が、少し高くジャンプする  
と子供達も一緒に果敢にジャンプ  
喜んでもらえ。。る！？それならば！と改めての肉体改  
造～(笑)

桃梨 上村 美保子

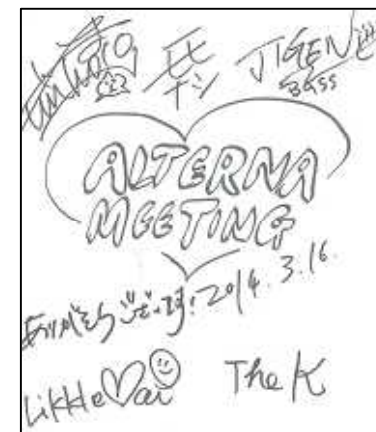
音楽にジャンルは数多くあるけれど、『オルタナティブ・ミュージック』というジャンルにふれることができたのは今回が初めてだった。その名もズバリ「オルタナミーティング vol.1 ～もう一つの出会い」で、阿佐ヶ谷のロフトも初めての僕にとっては、まさに「もう一つの出会い」でした。出演したのはリクルマイと桃梨という、どちらも男女ペアのミュージシャンで、災害の風化が心配される中、地道に被災地での活動を続け、メッセージを発信し続けるアーティストだ。緑の党会員発イベント第一弾でもあるその夜の阿佐ヶ谷ロフトのライブは、まさに「オルタナティブな雰囲気」でした。僕にとって抑圧する体制や権力に対抗する音楽といえばロックだったが、レゲエの世界では「バビロンシステム」と呼ばれる。僕はリクルマイの音楽を知っていたわけではないのだが、マイさんの音楽には、震災と現在の権力機構に対する憤りがあり、彼らの発信するメッセージがダイレクトに心に響いてきた。もうロックを聞かなくなってから久しいが、音楽のもつメッセージの多様性に改めて感動した。桃梨も、震災以降毎月被災地を訪問しながら演奏活動をし、新品のTシャツを届ける活動もしているそうだ。報道もされず、支援も十分に行き届いていない避難所は数多い。桃梨はそんな避難所にもかけつけて音楽をプレゼントしているというが、実際に継続させるには並々ならぬ努力が必要だ。ライブでは、JIGENのテナーベースが最高だった。ベースとボーカルのコンビは初めて見たのだが、昔バンドに憧れた時代、よく聞いたピンピン響く「ベースの格好良さ」を思う存分楽しめた。今回のライブの極めつけはリクルマイと桃梨のスペシャルセッションだ。エッジの効いた二人の女性ボーカルと、彼女たちをあたたく支える雰囲気ギターとベースの男性パートナー。雰囲気も何となく似ているのだが、これまで不思議と共演することがなかった2組のアーティスト。お互いのもつ音楽性の相性がとても良く、僕のようにどちらのアーティストも知らなかった者にとっても「夢の共演」であり、被災地をめぐる活動には様々ある中で、「東北を忘れない」を合言葉に心が一つになれることへの示してくれたライブだった。

今回、オルタナ・ミーティングに参加して思ったことは、ミュージシャンの皆さんと聴き手の私たちが「楽しもう」という点で一致できたということです。もちろん、イベントの主旨としては、<被災者支援>というテーマが掲げられてはいますが、そもそも、そのイベント自体が盛り上がるものでなければ目的を達成するための追い風にもならないわけであり、何よりもまず私たちが楽しむことができないのであればそのやり方自体を再考する必要が出てきます。従って、今回のイベントが成功した鍵は、あの場にいたひとりひとり全員が自然体で音楽に乗れたという点が一番大きかったと思います。また、その様な雰囲気と音楽を奏でた「桃梨」「LIKLEMAI&THE K」の皆さんの力量があってこそ成り立つ空間であったことは言うまでもありません。

本当に素晴らしいハートフルなライブとトークでした！  
舞台と客席が一体となつての熱気あふれる盛り上がり、  
ここから楽しめた時間でした。Tシャツプロジェクト、  
漁師さんに小舟を送る活動など地道に息の長い支援を続けられているということにも感動しました。  
緑色に満ちたプロジェクト大成功ですね！  
大場さんはじめ担当者の方々のご尽力に深くお礼申し上げます。

たくさんの方にきていただいて、内容も濃くて、最高でしたね！  
マイちゃんが話してくれた『単なる反原発運動ではなく、被災地に寄り添った音楽も含めた活動をしていきたい』という言葉が胸にしみるイベントでした。本当にありがとうございました&お疲れさまでした。

楽しい時間を過ごすことができました。音楽の切り口で、政治に関心を持つ人が増えていくことを期待しています。



Likkle Mai&The Kさんの伸びやかで美しい歌声と優しいギター！桃梨さんの優しい気持ちに軽快な歌声と素晴らしいテクニックのベース！トークセッションも素晴らしかったです！現場を見ている方々のお話は説得力がありましたし、考え深いものがありました。トークイベントだけの日があってもいい位に感じてしまいました^^こうしてがんばっている人達を応援出来る上に、自分も楽しめるだなんて、なんて素敵な企画だろうと思いました。本当に参加してよかったです！スタッフの皆様のスムーズな進行のお陰で、音楽の感動が一瞬も薄れる事無く最後まで過ごせました。ありがとうございました！楽しすぎて危うく終電逃す所でした(\*^m^\*)ありがとうございました( )  
また次回も参加したいと思います！

リクルマイと桃梨、偶然なんだろうけどすごくよく似た感じのグループ。フォークとレゲエがクロスオーバーしてとてもいい感じです。軽く入って行けて、気持ち良くノリノリでした。







